

# 茨木市立穂積小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 良好な結果であった
- ②A話すこと・聞くこと 良好な結果であった
- ③B書くこと 概ね良好な結果であった
- ④C読むこと 概ね良好な結果であった

#### (問題形式)

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

#### (その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問2(2)「面ファスナーに関する資料の文章の中の『より』と同じ使い方として適切なものを選択する」
- ・もっとも正答率が低かった問題は、問2(4)「面ファスナーに関する資料を読み、面ファスナーが、宇宙ステーションの中でどのように使われているかをまとめて書く」
- ・もっとも無解答率が高かった問題は、問3(2)「丸山さんの【文章の下書き】の…部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す」

#### 分析

- ・「書くこと」に課題が見られるが、それ以外の項目で全国平均を上回っており、指導の積み上げによる基礎基本の定着ができています。
- ・「書くこと」では、目的や意図に応じて、複数の資料をもとに、自分の考えを書いたり、要約したりする問題の正答率が低くなっている。特に、記述式問題は無解答率が平均より高くなっており、条件を整理して考えをまとめ、制限字数に合わせて文章を書くことに課題が見られる。
- ・「読むこと」では、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を選択する問題で、全国平均を大きく上回っている。学校図書館を活用した授業を取り入れ、資料の読み取りや必要な情報を見付ける機会を作っている成果だと考えられる。
- ・「話すこと・聞くこと」では、資料を活用して話す内容を選択する問題で、全国平均を大きく上回っている。調べたことを発表する経験の積み重ねにより、話の内容をわかりやすく伝えられるよう考え、資料を用いる目的への理解が深まっていると思われる。
- ・最後の3問では、特に無解答率が高くなっており、時間が足りずに解答に至らなかったことが予想される。字数制限や条件に合わせて書く経験の不足により、途中の問題で時間を要してしまったことが考えられる。時間や字数に制限がある記述式問題に取り組む機会を増やし、自分の考えを書くことに慣れていく必要がある。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |          |             |
|----------|-------------|
| ①A数と計算   | 良好な結果であった   |
| ②B図形     | 概ね良好な結果であった |
| ③C測定     | 良好な結果であった   |
| ④C変化と関係  | 良好な結果であった   |
| ⑤Dデータの活用 | 大変良好な結果であった |

### (問題形式)

- |      |           |
|------|-----------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問3(1)「6年生の選ぶ本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取る」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問2(3)「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」
- ・もっとも無解答率が高かった設問は、問4(3)「30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを書く」

### 分析

- ・全ての設問・領域において、正答率が大阪府・全国平均を上回っている。
- ・「データの活用」では、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題で、平均を大きく上回っている。算数に限らず、身の回りの事象から資料の読み取りや分析をもとに、自分の考えを表現する機会が位置づけられている成果だと考えられる。
- ・全国平均と比べて、無解答率が低くなっている。記述式問題においても、正答率が全国平均を大きく上回っており、問題解決学習、図や式、言葉で自分の考えを表現する授業づくりを進めている成果だと考えられる。
- ・「図形」の問題の正答率は、他の領域に比べて記述式問題の正答率が低くなっており、全国平均との差が少なくなっている。面積を求める公式は覚えているが、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方を説明するなど、応用問題への課題が見られる。公式を活用して、思考過程をどのように表現すればよいか定まらず、自信のなさから無解答になっていると考えられる。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・国語・算数ともに平均正答率が上がっており、概ね良好な結果である。
- ・文章や資料を読み取り、条件に合わせて書いたり、既習事項を活用して説明したりする力を高める必要がある。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語・算数ともに、高位層の割合は大きく変化していないが、低位層の割合が低くなっている。
- ・算数では、低位層の割合が過去最も低くなっており、基礎基本の徹底を図る取り組みの成果だと考えられる。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### 1. 基礎的な学力の定着に向けて

##### ① ほづみっ子タイムやモジュール学習の充実

- ・算数だけでなく、漢字やローマ字の定着、言葉の力を高めるために計画的、系統的に学習活動を進める。

##### ② 読書活動の充実

- ・毎週木曜日の朝の読書タイムや年2回の読書週間の取り組みをさらに充実させる。
- ・学級文庫の定期的な入れ替えや各学年必読書の選定など、読書環境を整える。
- ・スクールサポーターやボランティアの方による読み聞かせを行い、本への興味関心を高める。

#### 2. 学習指導の充実

##### ① 主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり

- ・各学年における「交流の仕方」の目標を設定し、対話を通して学び合う力を段階的に高める。
- ・学習した内容を自分の言葉で表現する「振り返り」の時間を設定し、主体的な学びを促す。
- ・研究授業や研修、教員間での授業参観を行い、授業力、資質向上を図る。

##### ② 学校図書館を活用した授業づくり

- ・スクールサポーターと連携し、さまざまな教科学習において、図書を活用する機会を増やし、資料から必要な情報を取り出し、活用してまとめる力を高める。
- ・同じ作者やテーマなど関連する図書の並行読書を進め、文章を読み取る力を高める。

##### ③ 自分の考えを表現する力を高める授業づくり

- ・問題解決学習において、既習事項をどのように活用するか見通しを持ち、自力解決する時間を確保する。
- ・自分の考えを言葉や図、絵を使って表現する場面を低学年から設定し、系統的に書く力を高める授業づくりを進める。

#### 3. 家庭・地域、保幼小中の連携

##### ① 学習規律の定着

- ・年度初めに学年だよりで「ほづみっ子学習のルール」の掲載し、家庭学習の充実や持ち物の準備など、学習規律の定着に向けて発信する。
- ・「生活チェック週間」を毎学期実施し、目標設定や振り返りの機会を設ける。

##### ② 地域学習の充実

- ・昔遊びやチューリップ交流会など地域の方と関わる機会や校区内の施設見学、体験活動などの充実を図る。

##### ③ 保幼小中の連携会議の充実

- ・出前授業や学校、児童会行事に関わる取り組み、合同研修など交流を図る。